

時代区分 II (2)-②尖閣諸島への民間人の進出を示す資料

八重山島共同水産会社が設置されたことを伝える記事

No.9 八重山嶋景況

新規掲載 1890年(明治23年)3月7日付時事新報記事

○八重山嶋景況 (二月九日發)  
 八重山嶋は琉球國中最南の一屬嶋にして山海水土の利  
 富み居れども人情風俗皆内地と異あり隨て百般事物  
 の進歩は大に劣れり左れども今日當嶋の現状は數年前  
 の比に非らずして諸般の事業幾分々進歩せり今左に其  
 一二を擧ぐれば學事は目下小學生徒三百餘名の内高等  
 生五十餘名あり既に授業に従事する者五名師範學校入  
 學生及簡易科傳授の爲め省府へ在學せる者七名來月は  
 更ふ三名程同所へ入學せしむ可き豫定の者もあり開闢  
 以來未だ會て學事の何物たるを知らざりし當嶋の農民  
 等も今は學問の必要を感じて就學の者少あからず又當  
 地は廣漠たる膏土多く且つ天然の物産に富めども人口  
 寡少にして加ふるに民智も發達せざるが故に農産工業  
 の是る可きものおし只四年前に移殖したる甘蔗繁茂し  
 て年々若干の製糖を出す位あり水産物に至りては世人  
 の熟知する如く當嶋近海は魚介に富み就中海外輸出品  
 中重もなる鱧鰭海參及び夜光貝平貝其他エラブウナキ  
 類の如きは年々の産出夥多なれども土人の漁業を爲す  
 ものは稀れし多くは内地より入込める出稼人のみ  
 あるを以て自然濫捕の憂あり爲めに去年二月より八重  
 山嶋共同水産社なるものを設置し大に漁業の奨励に盡  
 力せり

所蔵: 国立国会図書館

資料概要

八重山諸島の状況を報じた記事。八重山諸島近海は、海外輸出品として主要な「鱧鰭(フカヒレ)」「海參(ナマコ)」「夜光貝」が豊富に産出するが、その採集は県外からの出稼ぎ人によってなされているため、地元民にこれら漁業を奨励するため、「八重山島共同水産会社」(\*)を設置したことを報じている。

内容見本

(略)水産物に至りては世人の熟知する如く、当島近海は魚介に富み就中海外輸出品中重もなる鱧鰭・海參及び夜光貝(略)の如きは年々の産出夥多なれども(略)多くは内地より入込める出稼人のみなるを以て(略)去年二月より八重山島共同水産会社なるものを設置し、大に漁業の奨励に尽力せり

\*1 同社が、1890年に尖閣諸島に出漁し、多額の漁獲を得たことが同年出版の『沖繩青年雜誌』創刊号に報じられている。

作成年月日	1890年(明治23年)3月7日
編著者	-
発行者	-
収録誌	時事新報
言語	日本語
媒体種別	紙
公開有無	有
所蔵機関	国立国会図書館
利用方法	国立国会図書館で利用手続きを行う